



平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	2	年	時間数	70/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野	出版社名	開隆堂
------	------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	創	技	知		
一 学 期	4	C 生物育成に関する技術	1.生物育成とは 2.作物や家畜などの特性と生物育成技術 3.生物育成のライフサイクル	◎			○	<p style="text-align: center;">授 業 の 概 要</p> ガイダンスでは、2年生で学習する内容について解説します。 生物育成の分野では、基本的な栽培技術について学んだ後、簡単な作物の生育に取り組みます。 エネルギー変換の分野では、まず電気機器の概要や保守点検について理解します。簡単な回路について学習し、電子部品の組み立てを含む製品の製作を行います。	
		1 わたしたちの生活と生物育成	1.栽培ごよみ 2.環境要因 3.生育の規則性と技術	◎			○		
		2 作物の栽培	4.土づくり、肥料		○	◎			
			5.種まき、育苗と植えつけ		○	◎			
			6.定植後の管理		○	○	◎		
			7.収穫の方法と保存、収穫後の管理		○	◎			
	5	中間考査(5/15～5/16)			○	○	◎		
			8.栽培計画			○	◎		
			9.栽培の振り返りと反省		◎	○			
		6	3 生物育成に関する技術とわたしたち	1.社会・環境とのかかわり	◎	○	○		
				2.生物育成に関する技術とわたしたちの未来	◎	◎	○		
			期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)			○	○		◎
7	B エネルギー変換に関する技術	1.エネルギーとエネルギー変換	◎	○			<p style="text-align: center;">学 習 の 到 達 目 標</p> ・栽培の基本的な技術を理解し、実習で生かすことができる。 ・栽培実習を通して、栽培計画や環境について理解し、意欲的に取り組むことができる。 ・電気に関する基本的な知識を身に付けることができる。 ・適切な保守点検ができる。 ・電子部品の働きを理解した上で、工具を適切に使って製作品の組み立てができる。		
	1 わたしたちの生活とエネルギー変換	2.エネルギー資源の種類 3.エネルギー変化と効率	◎	○					
	夏季休業日(7/21～8/26)								
	8	2 エネルギーの変換と利用	1.電気エネルギー	○				◎	
			2.電気機器への利用	○				◎	
		3 動力伝達の機構とその利用	1.動力伝達のしくみ	○				◎	
9	4 機器の安全な利用と保守点検	2.運動を変化させるしくみ	○			◎			
		1.電気機器の構造	○	◎	○				
		2.電気機器の安全な利用と保守点検	○	◎	○				
	中間考査(10/9～10/10)			○	○	◎			
	10	5 製作実習	3.機械の保守点検と整備	○	◎	○			
			1.工具と電子部品	○	◎				
		2.はんだづけの方法と練習		○	◎				
11		3.製品の製作		○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
12	期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)			○	○	◎	<p style="text-align: center;">評 価 の 観 点</p> 関心・意欲・態度 生物育成に関する技術に関心をもち、知的財産を創造・活用しようとしている。 エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。		
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
冬 季	冬季休業日(12/21～1/6)							<p style="text-align: center;">生 活 の 工 夫 し 創 造 す る 能 力</p> 目的や条件に応じて栽培計画を立て、育成する生物の観察を通して成長の変化を捉え、適切に対応を工夫しようとしている。 使用目的や使用条件に即して、必要なエネルギー変換方法や力の伝達のしくみ、構造や電気回路などを考えている。	
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
1				○	◎		<p style="text-align: center;">生 活 の 技 能</p> 生物の適切な管理ができる。 機器の保守点検と事故防止、及び製作品の組立て調整を正しく行うことができる。		
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
				○	◎				
2	6 エネルギーの変換に関する技術とわたしたち	1.社会・環境とのかかわり	◎	○	○			<p style="text-align: center;">知 識 ・ 理 解</p> 生物の計画的な管理方法についての知識を身に付けている。 組立てや調整に必要な工具や機器の適切な使用方法についての知識を身に付けている。	
				◎	○	○			
				◎	○	○			
				◎	○	○			
				◎	○	○			
				◎	○	○			
3	学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)	2.エネルギー変換に関する技術の役割と影響	◎	○	○		<p style="text-align: center;">評 価 方 法</p> 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「生活を工夫し創造する能力」、「生活の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「製作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。		
				◎	○	○			
				◎	○	○			
				◎	○	○			
				◎	○	○			
				◎	○	○			
			◎	○	○	備 考			
			◎	○	○				

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	技術・家庭(技術分野)	学年	3	年	時間数	35/2	時間
----	-------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 技術分野	出版社名	開隆堂
------	------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	創	技	知	
一 学 期	4	D 情報に関する技術	1、情報社会の技術を見てみよう	◎	○	○		<b>授 業 の 概 要</b> ガイダンスでは、3年生で学習する内容について解説します。 Webページや電子メールのしくみなどについて学習し、応用ソフトウェアの実習を行い、その使い方や特徴を学びます。マルチメディアの活用について学習した後、作品づくりに取り組みます。情報モラルやセキュリティについても学習し、ネットワーク社会のしくみなどについて理解を深めます。
		1 情報とわたしたちの生活	3、情報の技術とその役割	◎	○	○		
		2 コンピュータと情報処理	1、コンピュータの構成 2、情報を処理するしくみ 3、デジタル化の方法	○		◎		
	5	中間考査(5/15～5/16)	4、デジタル化した情報の量と保存	○		◎		
		3 情報通信ネットワークの利用	1、ネットワークの構成 2、ネットワークでできること 3、情報を伝えるしくみ	○	○	◎		
	6	期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)		○	○	◎		
		4 ネットワークと情報セキュリティ	1、ネットワークの安全性 2、情報セキュリティ	○	○	◎		
夏季休業日(7/21～8/26)								
二 学 期	5	情報モラルと知的財産	1、利用するときのモラル 2、発信するときのモラル 3、人権や個人情報の保護 4知的財産の保護	○	○	◎		<b>学 習 の 到 達 目 標</b> ・情報通信ネットワークの利用方法を説明できる。 ・インターネットを利用して情報を収集し、整理することができる。 ・目的に応じた応用ソフトウェアを活用することができる。 ・応用ソフトウェアの特徴と利用方法を理解し、活用できる。 ・ネットワークのしくみと情報伝達の安全性やマナーについて考えることができる。 ・情報化社会と自己責任などについて理解し、考えを深めることができる。
		6 デジタル作品の設計と製作	1、生活の中のメディア 2、デジタル作品の構想 3、情報の収集と加工 4、作品の製作 5、作品の発表	○	◎	◎		
		7 プログラムによる計測・制御	1、生活の中にある制御 2、計測・制御システム 3、処理の手順とプログラム	◎		○		
	10	中間考査(10/9～10/10)		○	○	◎		
		6 デジタル作品の設計と製作	1、生活の中のメディア 2、デジタル作品の構想 3、情報の収集と加工 4、作品の製作 5、作品の発表	○	◎	◎		
	11	期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)		○	○	◎		
		7 プログラムによる計測・制御	1、生活の中にある制御 2、計測・制御システム 3、処理の手順とプログラム	◎		○		
冬季休業日(12/21～1/6)								
三 学 期	1			○	○	◎		<b>評 価 の 観 点</b> 関心・意欲・態度 情報に関する技術に関心をもち、適切に活用しようとしている。
				○	○	◎		
				○	○	◎		
	2	学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)		○	○	◎		
		8 情報に関する技術とわたしたち	1、社会・環境とのかかわり 2、情報社会を生きるために	◎	○	○		
3			◎	○	○			





平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(前期課程)

教科	技術・家庭 (家庭分野)	学年	3	年	時間数	35/2	時間
----	--------------	----	---	---	-----	------	----

教科書名	技術・家庭 家庭分野	出版社名	開隆堂
------	------------	------	-----

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	創	技	知	
一 学 期	4	3. 生活を豊かにする物をつくる	1 わたしや家族の生活を豊かにする工夫 2 布を用いたものの製作「ハーフパンツ」 ・ 製作の前に知っておこう  ・ ミシンを使おう	○				<b>授 業 の 概 要</b> ガイダンスで、3年生で学ぶ内容について説明します。ミシンを使ってハーフパンツを製作します。自分や家族の生活の課題を見つけ、その改善策を考えていきます。  <b>学 習 の 到 達 目 標</b> ・ハーフパンツの製作を通して、物づくりの楽しさを知る。 ・自分や家族の生活に関心を持ち、生活を豊かにするための工夫をする。
	5	中間考査(5/15～5/16)		○		◎		
	6		1 裁断 2 ポケットづくり 3 ポケット付け		○	◎		
						◎		
						◎		
	7	期末考査3年(6/27～7/3) 期末考査1・2年(6/28～7/3)			○		◎	
			4 また下を縫う		○		◎	
夏 季	8	夏季休業日(7/21～8/26)						
二 学 期	9		5 すそを縫う	○		◎		
			6 また上を縫う	○		◎		
	10	中間考査(10/9～10/10)		○		◎		
	11		7 ウェストを縫う		◎	○		
			8 仕上げ	◎		◎		
12	期末考査3年(11/28～12/4) 期末考査1・2年(11/29～12/4)	9 余り布を使って 10 自主制作		○		◎		
冬 季	1	冬季休業日(12/21～1/6) 生活の課題と実践	A 家族・家庭と子どもの成長 B 食生活と自立		○	◎	<b>評 価 の 観 点</b> 関心・意欲・態度 布を用いた物の製作に関心をもって取り組み、自分や家族の生活を豊かにする手立てを考え実践しようとしている。自分や家族の生活をよりよくすることに關心をもち、課題を見つけ実践的に取り組もうとしている。  <b>生活の技能</b> 生活の中で使える作品にするために具体的な場面と結びつけて工夫している。課題を見つけ、その解決を目指して、自分なりに工夫している。	
三 学 期	2		C 衣生活・住生活と自立 ・ 自分の課題を解決しよう		○	◎	<b>知 識 ・ 理 解</b> 製作に必要な材料や用具の選択、製作手順、用具の安全な活用方法を理解している。  <b>評 価 方 法</b> 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「生活を工夫し創造する能力」、「生活の技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業態度・取り組み方」、「定期考査」、「作品」、「提出物(ノートやプリント)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
			学年末考査3年(2/22～2/28) 学年末考査1・2年(2/25～2/28)			◎		○
	3		・ 自分の課題を解決しよう	◎		◎		
				◎			<b>備 考</b>	

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	4年	類型	共通	単位数	2	単位
----	----	----	------	----	----	----	----	-----	---	----

教科書名	家庭基礎 自立・共生・創造	出版社名	東京書籍
------	---------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等
		単元	内容	関	思	技	知	
一 学 期	4	第1章 自分らしい人生をつくる	学校家庭クラブとホームプロジェクト	○				授業の概要 家庭基礎では、生活面での知識や技術を身に付けて「自立」し、異なる世代の人々と「共生」する意識を持ち、自分らしい「生活」を創造していく力を養います。 また「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を通して、家庭や地域の生活課題を主体的に解決できる力を養います。
		1生涯発達の視点 2青年期の課題	1 自分について考える 2 自立について考える		◎			
		4人生をつくる	1 人生85年時代を生きる 2 一人で暮らす 3 パートと生きる 4 子どもと暮らす・親を支える	○	○			
		5家族・家庭を見つめる	5 多様なライフスタイル			○	○	
		6これからの家庭生活と社会	1 家族・家庭をどうとらえるか 2 社会の中の家族・家庭 3 家族と法律			○	◎	
		中間考査(5/15～5/18)	1 男女で担う家庭生 2 家庭生活と地域・福祉		◎			
	5	第2章 子どもと共に育つ 1子どもの育つ力を知る	1 子どもの育つ力 2 子どもの能力 3 身体の発達 4 心の発達 5 遊びの発達		◎			
		2親として共に育つ	1 子どもの発達と保育 2 子どもの生活と保育 3 親として育つ	○		○		
		4これからの保育	1 現代の子育て環境 妊婦疑似体験 DVD保育実習の基礎				◎	
		第3章 高齢社会を生きる 1高齢期を理解する	1 人の一生と高齢期 2 高齢社会の現状と課題 高齢者疑似体験	◎		○		
		2高齢者の心身の特徴	1 老化と成熟 3 高齢社会の将来像	◎	○			
		期末考査(6/27～7/3)	1 私たちの生活と福祉 2 共に生きる 3 社会保障の考え方		○		○	
夏 季	ホームプロジェクトの計画	衣・食・住・環境・経済生活からの見直し ホームプロジェクト計画		○		○		
	ホームプロジェクト実施	ホームプロジェクト実施	○	○				
	ホームプロジェクト発表	ホームプロジェクト発表						
	夏季休業日(7/21～8/26)							
二 学 期	8	3被服の役割 4保健衛生的機能 5社会的機能 6自己の表現		○		○	学習の到達目標 ・人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に身に付ける。 ・学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決することができる。 ・家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。 ・ホームプロジェクトの実践により、知識や技術を自分の生活に活かし、さらに意思決定能力や問題解決能力を身に付ける。 ・学校家庭クラブ活動の実践を通して、家庭と社会との関わりについて理解し、共に生きる社会の一員としての自覚を持つことができる。	
		2被服と表示 4被服材料の性能 1被服の手入れ		○		○		
		3衣生活と環境				◎		
		第5章 食生活をつくる 1食生活について考える	1 高校生の食生活 3 食生活の課題 4 食生活の変化	○		○		
	9	中間考査5年(10/2～10/5)				◎		評価の観点 関心・意欲・態度 家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
		中間考査4・6年(10/9～10/12)		◎	○			
	10	2食事と栄養・食品	3 炭水化物 4 脂質 5 たんぱく質 6 無機質 7 ビタミン		◎	◎		
		1食品の選択と保管 2食生活の安全と衛生	調理実習計画1と準備 調理実習1					◎
		1栄養バランスの良い食事		○		◎		
		期末考査(11/28～12/4)	調理実習計画2と準備 調理実習2		○			◎
冬 季	1	調理実習計画3と準備 調理実習3				○	知識・理解 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。	
	第8章 経済生活を営む 1職業生活を設計する	1 経済的に自立する 1 収入と支出を知る	○		○			
三 学 期	2	2計画的に使う	1 契約と契約トラブル 2 消費者をめぐる問題		○	◎	評価方法 学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「定期考査」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また、学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。	
		5現代の消費社会	金融経済消費者セミナー DVDはじめての金融ガイド		○	○		
	第7章 住生活をつくる 1住生活について考える	1 住生活の機能と変化 2 平面図を理解する		○		○		
	学年末考査4・5年(2/22～2/28)	1 住生活の機能と変化 2 平面図を理解する			○	◎		
3	2住生活の計画と選択	1 安全で快適な住生活 2 健康な住生活		◎		◎	備考	
	第9章 生活を設計する 生活を見通す	1 生活設計とは 2 自立し共に生きるためにわたしのライフデザイン 人生すごろく		○		○		
				◎	◎			

平成30年度  
シ ラ バ ス

愛媛県立宇和島南中等教育学校(後期課程)

教科	家庭	科目	子どもの発達と保育	学年	6年	類型	スーパーグローバル文科系	単位数	2	単位
----	----	----	-----------	----	----	----	--------------	-----	---	----

教科書名	子どもの発達と保育 新訂版	出版社名	実教出版
------	---------------	------	------

学期	月	指導計画		評価の観点				授業の概要・学習の到達目標・評価の観点等	
		単元	内容	関	思	技	知		
一 学 期	4	1章子どもの発達の特性	1 子どもの発達 2 こんにちの児童観・発達観	○		○		<p>授業の概要</p> <p>子どもの発達と保育では、「子どもの発達の特性」、「子どもの発達の過程」、「子どもの生活」、「子どもの保育」、「子どもの福祉」について学習します。教科書や資料プリントを用いて、乳幼児期が人間発達の基礎を培う時期であることを踏まえ、誕生から就学までの長期的視野をもち、実際に子どもと触れ合う学習活動を通して、子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得し、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と実践的な態度を身に付けます。また、保育技術検定を受検し、子どもと触れ合う技術を高めめます。</p> <p>学習の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を身に付けることができる。</li> <li>子どもの発達や子育てに関心を持ち、関わりうとする意欲や実際に関わることができる能力と実践的な態度を身に付けることができる。</li> <li>乳幼児の生活の特徴と適切な養護の在り方、生活習慣の形成、生活環境の整備、健康管理と事故防止などについて学び、乳幼児の発達を促すための望ましい生活について理解することができる。</li> <li>子どもの発達を促すための保育の必要性と意義を理解し、保育の目標に応じた基本的な保育技術を身に付けることができる。</li> <li>児童福祉の理念や関係法規と制度について学び、近年の子育て支援の考え方や施策について理解することができる。</li> </ul> <p>評価の観点</p> <p>関心・意欲・態度</p> <p>生活産業を取り巻く諸課題について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>思考・判断・表現</p> <p>生活産業を取り巻く諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、生活産業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。</p> <p>技能</p> <p>生活産業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生活産業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。</p> <p>知識・理解</p> <p>生活産業に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、生活産業の社会的な意義や役割を理解している。</p> <p>評価方法</p> <p>学習の状況は、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」の4つの観点で評価します。具体的には、おもに「出席」、「授業(実習)態度・取り組み方」、「定期考査」、「提出物(レポートやノート)」により評価します。また学年の成績は、上記の観点から評価した各学期の成績の平均とし、5段階法でも評定します。</p> <p>備考</p>	
		2章子どもの発達の過程 1節子どもの発達	1 胎児の発育・発達 妊婦疑似体験 2 乳幼児の身体的特徴 3 乳幼児の生理的特徴 DVD生命の誕生		○		○		
		2節子どもの精神発達	1 運動機能と感覚機能の発達 2 知的発達			○	○		
		中間考査(5/15～5/18)			○		○		
	5	3節人間関係の発達	1 言葉の発達 2 情緒の発達 3 子どもの人格形成	交流計画		○	○		
		1 愛着関係の形成 2 人間関係の広がり	幼児との交流		○	○			
		3章子どもの生活 2節子どもの遊び	1 生活と遊び 2 遊びの援助	DVD保育実習			○		
		期末考査(6/27～7/3)		幼稚園との交流	○		○		
	7	1節生活と養護	1 生活と健康 夏休みの交流計画			○	○		
		夏季休業日(7/21～8/26)		施設での交流・保育実習					
		8	2 栄養と食事	離乳食実習	○		○		
			3 食習慣の形成 4 衣生活と育児用品	幼児食	○		○		
二 学 期	9	沐浴・おむつ交換	幼児との交流	○		○			
		中間考査5年(10/2～10/5)		○		○			
		中間考査4・6年(10/9～10/12)	交流計画	幼児との交流	○		○		
		読み聞かせ練習			○		○		
	10	読み聞かせ練習			○		○		
		文化祭展示準備	おやつ実習			○			
	11	幼稚園との交流		○		○			
		3節生活習慣の形成	1 生活習慣の意義 2 基本的な生活習慣 3 社会的な生活習慣			○	○		
		4節健康管理と事故防止	1 日常の健康管理 2 病気の看病と予防 3 事故の防止と応急用品				○		
		期末考査(11/28～12/4)		おもちゃづくり	○		○		
12	幼児との交流				○	○			
	折紙					○			
	冬季休業日(12/21～1/6)								
	4章子どもの保育 1節保育の意義と重要性	1 保育とは 2 人間形成と保育			○	○			
三 学 期	1	2節家庭保育と集団保育	1 家庭保育 2 集団保育		○	○			
		5章子どもの福祉 1節子どもの福祉	1 児童福祉の理念 2 児童福祉に関する法律 3 児童福祉のための機関・施設				○		
	2節子育て支援	1 社会的支援の必要性 2 児童虐待とその予防 3 これからの子育て支援	家庭学習		○				
	2	学年末考査4・5年(2/22～2/28)			○		○		
3									



